

令和 5 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立豊新小学校

令和 6 年 2 月

(様式 2)

大阪市立豊新小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 83%以上にする。 R4 82.5% R5 84.3% ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 R4 0.02 R5 0.018 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 R4 16.7% R5 11.1% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめアンケートを定期的に実施し、当該児童から聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していくとともに、日常的にいじめはどんな理由があってもいけないことだと指導を継続していく。</p>	B
<p>指標 学期に 1 度、いじめアンケートを実施。いじめ対策委員会で認知したいじめについて全教職員で共通理解を図り対応する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>区役所(子育て支援室)やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有しながら支援を継続していく。</p>	B
<p>指標 月に 1 回、生活指導部会及び児童理解研修を実施する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>ICT の活用による、本人、保護者と学校がつながる回数を増やす。</p>	B
<p>指標 学校に来ることが難しい児童にクロームブックを貸し出し、週に 1 回以上オンライン学習を実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①いじめアンケートを学期に 1 度以上実施した。(2 学期のみ 2 度実施) アンケートから、事案の早期発見・解決につながり、児童にとってもいじめについて考える機会となった。校内調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことがありますか」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合は、「思う」と回答する児童の割合が 85% と目標値を上回った。
- ②生活指導部会を毎月 1 回以上実施した。児童の様子や校内の課題等について共通理解を図り、対応策を講じることで一貫性をもった指導ができた。また、課題のある児童については、全体共有できる児童理解研修会を 2 回実施した。(5 月、1 月) 校内だけでなく、

<p>区役所やSSW等、外部の関係諸機関との情報共有や連携も行うことができている。</p> <p>③クロームブックの貸し出しはそれぞれの児童の実態に応じて行い、また状況に合わせて家庭訪問や電話連絡、放課後登校等の対応をしてきた。学校に来ることが難しい児童や保護者に対しては、気持ちや家庭状況に沿って指導・支援を行った。不登校児童の在籍比率は1.8%で、前年度不登校児童の改善の割合は11.1%で昨年度から改善している。</p>
次年度への改善点
<p>①今後も継続して、いじめはどんな理由があってもいけないことだという意識づけを行う必要がある。いじめアンケートの実施回数は、今年度と同様とする。教職員間での「報・連・相」を徹底するため、月1回以上の生活指導部会を引き続き実施する。</p> <p>②生活指導部会等以外でも、SKIPの『いいとこみつけ』、『心の天気』から児童の様子を観察・記録し、適宜入力していく。そこから児童の心の状態や日々の生活状況を把握・共有し、必要に応じて関係諸機関とともに指導にあたる。</p> <p>③生活リズムや家庭での考え方多様になる中、数値化だけでは見えない児童の心身状態も十分配慮する必要がある。学校とのつながりが難しい児童には、フリースクールや地域活動等、学校以外での社会とのつながりがもつことができるよう支援していく。</p>

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91% 以上を維持する。 R4 93.5% R5 94.5% (経年調査) 95% (校内調査) 令和 5 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和 4 年度より 2% 増加させる。R4 39.2% R5 42.5% (経年調査) 42.5% (校内調査) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 社会や集団生活でのルールについて全教職員で日常的に指導する。	B
指標 「豊新学びのきまり」に基づき指導に当たる。毎週児童朝会を実施し、月目標や週目標を伝え、指導・支援をする。	B
取組内容② 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 体験活動等で得た達成感や充実感をキャリアパスポート等を活用し振り返り、自尊感情の育成を図る。	B
指標 学期に 2 回、キャリアパスポートで目標の設定と振り返りを実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①令和 5 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」の項目において、経年調査は 94.5%、校内調査は 95% の児童が肯定的に答えており、目標値を上回った。『豊新学びのきまり』に基づいた指導を行い、一貫性をもった指導ができた。</p> <p>②令和 5 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目において、経年調査は 42.5%、校内調査は 45% の児童が最も肯定的に答えており、どちらも目標値を上回った。今年度は、創立 50 周年式典を初め、様々な行事を児童主体で取り組み、そこで得た達成感や充実感から自尊感情の育成に繋げることができた。</p>
次年度への改善点

①教職員と児童との間にずれが生じないように、『豊新学びのきまり』を学期に 1 度、検討・確認をして配付する。引き続き、安心・安全を意識した行動ができるよう、『月目標』を児童朝会等で明確に提示していく。『週目標』は、実態に応じて児童へ指導する。
②自尊感情が向上してきてはいるが、未だ肯定的な回答を示す児童の割合が低い。キャリアパスポートの活用だけなく、様々な学習や行事から児童の自尊感情を高める指導・支援を実施する。また、児童会が中心となっている『あいさつ運動』以外にも、自発的な意思に基づいた活動ができるように計画していく。

(様式 2)

大阪市立豊新小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40 %以上にする。 R4 36% R5 36.6% ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 R4 国語 3年 0.97 4年 0.99 5年 0.95 算数 3年 0.98 4年 0.86 5年 0.98 R5 国語 4年 0.97 5年 1.00 6年 1.02 算数 4年 0.95 5年 0.95 6年 1.03 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83 %以上にする。 R4 82.8% R5 84% ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 94 %以上にする。 R4 94% R5 88.3% 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れ、多くの場面で考えを深め合ったり、伝え合ったりできるように工夫し、学習したことを振り返る活動を取り入れる。</p>	C
<p>指標 対話の目標をもとに 1 日 1 回、学習の中で話し合う活動を実施する。また、学習の中で振り返る活動を取り入れる。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、家庭学習支援などを行う。</p>	B
<p>指標 単元ごとに習熟を図るため調査を実施し、個々の進捗状況を把握する。学習ドリルなどを、やり直しを含め丁寧に実施し、週に 1 度必ず点検する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>I C T 機器を活用しながら、理科的な見方・考え方興味を持たせる。学習の見通しをもって観察・実験を行い、主体的に問題解決ができる活動を取り入れる。</p>	B
<p>指標 単元ごとに、学習者用端末等を使用し、観察や実験結果を記録したものから学習のまとめを実施する。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を充実させる。</p>	B

指標 外国語活動・英語教育の教員研修会を年3回実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 『Sky Menu』、『発表ボード』、10月からは、『ロイロノート』といった情報共有システムを活用した学習を日常的に展開してきた。ICTツールから、双方向のコミュニケーション学習を実施することで、話し合いや協働的な活動が充実したものとなり、学びを深めることができた。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか。」の項目において、もっとも肯定的に答える児童の割合は、36.6%で目標値を3.4ポイント下回った。
- ② 単元ごとに学習の習熟度を図るための学習ドリルや単元の振り返りを適宜行い、個々の学習状況や進捗状況を把握してきた。理解が十分ではない児童には、個別指導や反復学習を行い、学習内容の理解が深められるようにしてきた。今後、小学校学力経年調査の結果から、国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較していく。
- ③ 小学校学力経年調査の「理科の勉強は好きですか」の項目は、84%と指標を上回った。『Sky Menu』、『ロイロノート』といった情報共有システムを活用しながら、実験の手順や注意事項を理解し、活動に取り組んだ。ICT機器を活用しながら観察経過や実験結果を考察し、学習を深めることができた。
- ④ 小学校学力経年調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は88.3%で、目標値を下回ったが、校内調査では、94%と高い結果であった。しかし、朝の時間にモジュール学習を実施することで、外国語に対する児童の興味・関心を高められるようにしている。また、人権教育部を中心にC-NETと交流する『イングリッシュデイ』の開催（8月）やICTを活用した、リアルタイムで他の国（オーストラリア）とつながる学習活動を展開した。（10月）外国語活動や英語教育の研修会は、計画通り実施できた。【イングリッシュデイ（8月）、英語教育研修会（9月）、英語実践授業（11月）】

次年度への改善点

- ① ICTを活用し情報活用能力を養いながら、単元や題材に即してペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築していく。多くの場面で対話的な活動ができるように引き続き工夫する。
- ② 児童一人一人の状況に応じた学力向上への取り組みとして、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ学習、反復学習、家庭学習支援等を引き続き行う。
- ③ 今後もICT機器を活用し、問題解決的な学習を主体的に取り組む。見通しや目的意識をもった観察・実験を行い、結果を考察しながら自然事象についての知識や理解を深める。
- ④ 引き続き、C-NETの授業を参考にしたり研修会を実施したりする等、外国語活動・英語教育の指導法の工夫を共有し、児童の興味・関心を高めていく。

(様式 2)

大阪市立豊新小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。 R4 73.3% R5 70.3%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>運動の日常化のために、児童が意欲的に体を動かそうとする習慣を身につける。</p> <p>指標 全校で取り組む業間活動を学期に1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>保健学習や保健週間の設定において、健康で安全な生活態度や習慣を向上させる取り組みを行う。</p> <p>指標 年1回以上の性教育を実施する。9月と2月に「手洗い強調週間」を行う。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>栄養指導や給食指導において、食べることの楽しさやバランスのよい食生活を大切にする気持ちを養う取り組みを行う。</p> <p>指標 食に関する指導や活動を学期に1回以上取り組む。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①計画通り活動を実施した。『なわとび週間』は、八の字を縦割り班と学級ごとで取り組んだ。実施前の児童集会で運動委員会から、八の字やダブルダッチ等の跳び方を紹介し、縄跳びに対して意欲を高めた。各班・学級、それぞれ記録が伸びるように励ましあいながら取り組む姿がみられた。</p> <p>『かけあし週間』では、マラソンカード（日本一周）を使い、走ることに対する意欲を高めた。どちらの活動も児童が考えたほうにやん体操から開始し、自主性をもって楽しみながら体を動かしていた。</p> <p>②全学年、計画通り年1回以上の性に関する指導を実施し、1月に各学年の学習内容を共有した。年に2回の『手洗い強調週間』では、手洗いの歌やポスター、手洗いカード等を保健委員会が作成し、健康を保持し習慣化できるように意識づけを行った。</p> <p>③栄養教諭による栄養指導を全学年で実施した。それぞれの栄養素の働きや栄養バランスの取れた献立の立て方、朝食を食べる大切さ等、より良い食習慣が健康につながるということを学習した。また、『給食完食週間』で、食に対して感謝をし、残さずに食べるという意識をもつことができた。</p>

次年度への改善点

- ①休み時間に読書が好きな児童やお話をすることが好きな児童もいるため、指標の見直しが必要である。運動委員会を中心に場の工夫や縦割り班等での異学年交流を取り入れ、教え合い、高め合いながら運動できる機会を増やし、進んで体を動かす児童の割合を高める。
- ②性に関する指導について、各学年の取り組み内容を報告するだけでなく、次年度への引き継ぎを行い、系統立てて学習を行うことができるようしていく。また、清潔を保持するため『手洗い強調週間』だけではなく、日常的から継続して声掛けを行っていく。
- ③栄養教諭による栄養指導だけではなく、『献立表』や『食育だより』、『食育ポスター』等、食に関する指導を継続していく。今後も食べることの楽しさやバランスのよい食生活を大切にする気持ちを養う。また、各学年、豊新の森から収穫できる果物や野菜を調理する『食に関する年間指導計画』を立てる。【1年みかん、2年さつまいも、3年柿、4年ザクロ、5年、橙、6年みかん】

(様式 2)

大阪市立豊新小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校の年度目標 ・令和 5 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合を 61 %以上にする。 R4 61% R5 56%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。	B
指標 教員が一人 1 回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修を 8 回以上行う。	
取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 主体的、対話的な活動を取り入れ、児童が自分の考えを持ち、交流を通じて考えを広げる場を設定する。	A
指標 話型をもとに言語活動の充実を図り、1 日 1 回以上、話し合う活動を取り入れる。	
取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 年 3 回学力向上 week を実施し、児童の学力向上につなげる。	A
指標 学期に 1 回の学力向上 week (1 学期に「計算領域」、2 学期に「計算領域」、3 学期に「漢字」) を実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①実施計画に基づいて、実施することができた。令和 5 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、目標値である最も肯定的に答える児童の割合は 56 %で下回った。児童が主体的に取り組み、できた喜びを感じられる指導法の研究を進めていく必要がある。
②学級活動の中で『1 日の目標』や『生活の振り返り』を行う等、年間を通して多くの場面で、1 日 1 回以上伝え合う活動を積極的に取り入れてきた。しかし、自分の考えに自信がもてず、発表に対して苦手意識を持つ児童も少なからずいる。
③計画に沿って『学力向上 Week』を実施した。【1 学期 (計算領域) 2 学期 (計算領域) 3 学期 (漢字) 5 年生のみ漢字検定】試験を意識して進んで学習に取り組む姿が多くみられた。合格点に達すると賞状が授与されるという意欲付けもあり、学力向上に向けた充実した取り組みであった。
次年度への改善点

①引き続き研究授業および研修会を実施する。次年度の年間計画・方針・研究の柱を明確にして共通理解をもって研究を深める。
②今後も主体的、対話的な活動を多く取り入れ、交流を通じて自らの考えをきちんとつ

ことができる指導をしていく。
③校内の研究教科に関連付けた『学力向上 Week』の実施内容を学力向上部中心に検討し、実践していく。

(様式 2)

大阪市立豊新小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「毎日」と答える児童の割合を94%以上にする。 <p style="text-align: right;">R4 93% R5 94%</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆとりの日を週 1 回設定する。学校閉庁日は、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業以外の休業期間においては 1 日以上設定する。 <p style="text-align: right;">R5 夏季3日 冬季3日</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号 5 DX (デジタルトランスフォーメーションの推進)】 ICT (心の天気、デジタルドリルなど) を活用した教育を推進する。	A
指標 日々の授業の中で学習者用端末を毎日使用する。	
取組内容②【基本的な方向番号 6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。	B
指標 ゆとりの日について、週 1 回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外においては 1 日以上設定する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目については、肯定的に答える児童の割合が94%で目標値に達した。単元によっては、毎日の活用は難しいが、『デジタルドリル』、『Sky Menu』、『ロイロノート』等のICTツールが定着してきており、学年の実態に合わせた実践ができた。学習者用端末を使った学習は、ノートに書くよりも速く、また書きやすい。さらに自分の考えと友達の考えとを比較することで、気づきが生まれ互いの良さを認め合える確かな学びへと繋がった。</p> <p>②ゆとりの日や学校閉庁日の設定についてはできているが、実際の勤務状況と対応ができていない。今年度は、『学校園における働き方改革推進プラン』に基づき、学期末・学期初め（8月のみ）の事務処理が増大する期間を全学年 5 時間授業にし、業務時間の確保を図ることができた。今後も、業務内容の見直しや会議の軽減・行事の厳選などの工夫をしていく必要がある。</p>
次年度への改善点

①日々アップデートする ICT ツールの実践方法について理解を深め、実用できるよう定期的に ICT 研修を実施する。また、活用事例や授業実践の共有ができる場を設定する。ICT ツールを生かした教育活動を継続して展開できるよう、ICT 支援員と連携していく。
②ゆとりの日をホワイトボードに書き、注意喚起をする。また、ゆとりの日に行事をでき

る限り入れない。様々な学校行事が計画されていくが、業務時間内にできる内容かを再検討し、行事の精選を図る。

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85% 以上にする。 R4 85% R5 80% 令和 5 年度の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目において肯定的に答える児童の割合を 91% 以上にする。 R4 91% R5 94% 令和 5 年度の校内調査において「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を令和 4 年度より 1 ポイント 増加させる。 R4 88% R5 93% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号 8 生涯学習の支援】 学級文庫の充実ならびに地域の方の読み聞かせ活動の活性化を図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。	C
指標 週に 1 回、図書館を利用する。 10 月に読書月間を実施する。	
取組内容②【基本的な方向番号 8 生涯学習の支援】 芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。	A
指標 芸術鑑賞行事、3 ~ 6 年生で社会見学を確実に 1 回実施する。	
取組内容③【基本的な方向番号 9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 教育方針や教育活動の様子を、「学年だより」等を通してわかりやすく伝える。	A
指標 月に 1 回、学年だより等を地域・保護者に配付する。週 1 回、学年の活動をホームページに掲載する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 東淀川図書館から学期ごとに 100 冊借り、学級文庫として活用している。また、年間を通して図書館ボランティアによる読み聞かせ（1・2 年生対象）や図書館開放（全学年対象）を実施している。校内調査の「読書が好きですか」の項目においては、80% と目標値を下回った。しかし、図書委員会が実施した『読書月間』では、読書ビンゴカードから様々なジャンルの本を読むきっかけを作り、ビンゴが達成した児童には、ブックカバーを配付する等、読書意欲を引き出す工夫をした。結果、昨年度と比較し休み時間に図書室を利用する児童の割合が増えている。
- 年間行事計画に基づき、各学年で社会見学や町たんけん、公園の清掃活動等、多様な体験を実施した。行事ごとに、周囲や相手のことを考えた行動を心がけるよう、繰り返し指導してきた。結果、心豊かな子どもの育成を図ることができた。芸術鑑賞行事を実施したこ

とで、合奏に興味をもつ児童が増え、様々な楽器に挑戦する姿がみられた。

③月に一度、『学年だより』や『学校だより』を配付している。また、週1回以上学校のホームページで各学年の学習活動を伝えることができた。高学年では、児童が係活動として、ホームページに活動の様子や振り返りを掲載している。

次年度への改善点

①今後も図書館ボランティアによる読み聞かせ活動（がらがらどん）や図書館開放を継続して取り組んでいく。また、学級文庫の充実を図るために、新刊図書の購入や東淀川図書館の貸し借りを計画的に行っていく。読書月間のような、児童の意欲を引き出す工夫を今後も実践する。

②今後も計画的に実施する。低学年から体験活動を増やす機会を設ける。（出前授業や図書館見学等）

③『学校だより』と『学年だより』は、月に一度配付することができ、さらに緊急時や行事前の『ミマモルメ』も活用することができたので、今後も継続して取り組んでいく。ホームページの掲載については、引き続き更新できるように掲載方法を年度初めに研修を実施する。